はじめての自己紹介スピーチ【生徒用・課題カード】

Class______ No.______ Name____________________________

🎯 ゴール: 30秒、原こう用紙を見ずに、クラスに自分を紹介できる

場面　新学期。クラスにはまだあなたをよく知らない人がいます。「あなたらしさ」が伝わる自己紹介をしよう。

話す内容(4文以上): ①名前 ②好きなもの・こと(I like ~.) ③していること(I play/study ~.) ④ひとことアピール(I am ~! / Please call me ~!)
例: Hello, I am Mika. I like cats and music. I play the piano every day. I am a good singer! Thank you.

準備　テストまでにすること(授業2回＋家で練習)

①原こうを書く(4～6文)→先生チェック ②ペアで2回リハーサル(聞き手はいいところを1つ言う) ③顔を上げる練習――原こうは見ない。忘れたら Well... と言ってゆっくり思い出せばOK

本番　時間: 1人30秒～1分　／　評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事！)
正確さ	今回の言語材料(下の「使う形」)が正しく使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	聞き手を見て・声がとどいたか・あいさつと締めがあったか

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく**加点**。本物の会話の技だから、遠りょなく使おう。

はじめての自己紹介スピーチ【教師用・ルーブリックと運用】

12点満点（4観点×3段階）

ねらい　このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	聞き手に向かって、まとまりのある自己表現を一人でやり切る力（話すこと[発表]の第一歩）
なぜ必要か	中1の1学期は「人前で英語を話す＝こわい」が固まる前の唯一の時期。ここで全員に成功体験を配ると、以後3年間の発表活動の土台（心理的安全性）ができる。ペーパーテストでは測れない「声に出す勇気」を、評価の形で承認するのが目的。

評価　ルーブリック（B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める）

達成	A（3点） 4文以上で自分らしさが伝わり、聞き手が反応した	**B（2点）＝評価規準** 4文程度で名前・好き・していることが伝わった	C（1点） 2文以下または日本語が主
正確さ	A（3点） be動詞・一般動詞の使い分けがすべて正しい	**B（2点）＝評価規準** 誤りはあるが意味が通じる（I am like～等が1回程度）	C（1点） 誤りで意味が伝わらない箇所がある
流暢さ	A（3点） 止まらず、自分の言葉として話した	**B（2点）＝評価規準** 間はあるが自力で最後まで話した	C（1点） 長い沈黙・原こうの棒読み
態度	A（3点） 顔を上げ、声がとどき、あいさつ・締めもあった	**B（2点）＝評価規準** ときどき顔が上がり、声はおおむねとどいた	C（1点） 下を向いたまま・聞こえない

✓ C→Bの手立て: 条件を1つ減らして再挑戦の機会を（例: メモを見てよい・時間を短く）。再テストはB上限にせず、できた姿をそのまま評価する

運用　当日の流れ（1コマで20人目安）

1	ルーブリック（このページ）のB列を一読してから開始――「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード（1ページ目）の場面と評価観点を全体で確認（2分）。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施（1人30秒～1分）。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ（よかった表現を1つ書く）または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める（次回への空気づくり）

☆運用のコツ 最初のパフォーマンステストは「全員が成功体験を持つ」ことが最優先。順番は挙手→出席番号の混合にし、6人終わるごとに全体で拍手のルールを入れると空気が温まります。

はじめての自己紹介スピーチ【採点記録シート】

実施日＿＿＿＿＿　クラス＿＿＿＿

記録　その場で〇をつけるだけ（A=3 B=2 C=1）

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ（次への一言）
＿＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿＿					/12	
＿＿＿＿＿					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種――1語でOK。

学校・授業での利用は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）